

として硬直化！

一般会計

213億8,890万円

平成23年度一般会計と6特別会計及び水道事業会計決算認定が9月定例会に上程されました。議会で、一般会計決算特別委員会と特別会計決算特別委員会を設置し、主要施策の成果説明書や監査委員の決算審査意見書などを参考に執行部の出席を求め審査し、いずれの決算も認定しました。

平成23年度一般会計の歳入総額は220億5933万6493円、歳出総額213億889万5102円で、不納欠損額1127万9753円、収入未済額2億6254万6623円となっている。

収入未済額の主なものは、国・県補助金の繰越明許に係るものが828万4千円、市税、保育所負担金、住宅使用料及び市有地貸付料等に係る滞納額が1億7966万2623円であり、税など負担の公平性から、厳正な対応をとるよう要望する。

財政運営については依然として硬直化した状況であり、今後も行財政改革を進める中で、健全で弾力性のある運営に努めることを要望する。

一般会計決算の概要

区 分		23 年度	内 容
歳入	市 税	34億8054万円	市民税など私たちが納めるお金
	地方交付税	92億5353万円	市町村の均衡を図るため国が交付するお金
	国県支出金	41億2003万円	国県が使用目的を特定し交付するお金
	市 債	22億9715万円	市が事業のため借り入れるお金
	そ の 他	29億0809万円	使用料、繰入金、諸収入など
合 計		220億5934万円	
歳出	総 務 費	24億4683万円	自治会関係費、電算管理費、人件費などに使うお金
	民 生 費	60億2917万円	子供や老人、障害者など福祉全般の実務事業に使うお金
	衛 生 費	15億8250万円	健康管理及び清掃作業に使うお金
	農林水産業費	19億1974万円	農業、林業、水産業に使うお金
	土 木 費	17億3523万円	道路や河川公園整備に使うお金
	教 育 費	30億3937万円	教材備品や学校整備に使うお金
	公 債 費	25億7876万円	市の借金を返すお金（元金・利息）
	そ の 他	20億5730万円	議会・商工・消防・基金積立など
	合 計	213億8890万円	

市債(借金)と基金(貯金)の推移

区分	平 成 23 年 度		平 成 22 年 度	
	総 額	一人当たり (人口39,138人)	総 額	一人当たり (人口39,738人)
市 債	220億8,066万円	56万円	220億4,428万円	55万円
基 金	84億6,496万円	21万円	75億7,552万円	19万円

徴収率の向上と
効率的な財政運営を

23年度 決算認定

財政は依然

国民健康保険事業

問 医療費の伸びは。

答 21年度が49億2100万円、22年度は49億6200万円、23年度では51億2900万円となっております。3年間で被保険者が1000人近く減少しているにも関わらず、医療費の総額は増加しており、国保財政は逼迫している。今後、27年度から見込まれる消費税増税分がどれだけ充当されるかも見きわめながら、国保財政の健全化に努めていきたい。

後期高齢者医療

負担の公平性の確保は重要であるため、収納率向上と収入未済額の減少のため、支払い能力のある滞納者については、差し押さえなどを含め、厳正なる対応をとるよう要望する。

介護保険事業

問 施設に入れない待機者数とその対応方法は。
答 待機者数は409名

で、介護度により連続して30日間利用できるショートステイを紹介するなどの対応をしている。第5期介護保険事業計画で、小規模の特別養護老人ホームを市内に1カ所造る予定。

簡易水道事業

問 御領簡水の新たな水源の水質検査で基準値を上回った項目は。
答 基準値を上回るヒ素が検出され、現在、1年かけポンプの深さを段階的に調整しながら取水試験を行っており、基準値を超えるヒ素が出るようであればその井戸は廃止したい。

問 石綿管の延長は。
答 23年度末で川辺簡易水道は500メートル残っている。来年度で更新が終了の予定。顕娃



23年度に完成した配水池（西元地区）

特別会計・企業会計決算額

区 分	歳入決算額	歳出決算額	差引残額
国民健康保険事業	63億483万円	62億4,968万円	5,515万円
後期高齢者医療	4億9,075万円	4億8,942万円	133万円
介護保険事業	43億1,706万円	43億60万円	1,646万円
簡易水道事業	4億2,412万円	4億905万円	1,507万円
農業集落排水事業	7,601万円	7,443万円	158万円
公共下水道事業	2億1,143万円	2億376万円	767万円
合 計	118億2,420万円	117億2,694万円	9,726万円
水 道 事 業			
収益的収入および支出	3億2,854万円	2億9,295万円	—
資本的収入および支出	1億6,458万円	2億8,528万円	—

水道事業

問 水道事業会計の今後の見通しは。
答 今年度から料金改定をした。老朽管更新は今

簡易水道中央簡水については、23年度末で505メートルあり本年度で終了。青戸簡水は933メートルで、県道石垣喜入線の改良工事にあわせて更新していきたい。

後も進める必要があり、配水池についても、地域水道ビジョンにおいて川辺・知覧地域ともに増強が必要であるとの指針が出されており、これらの事業を試算すると財源不足が生じることから、建設改良積立金を十分確保する必要がある。